

## 本の

HON-NO-HIROBA

## ひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2025年2月1日発行(毎月一回1日発行)第806号

出会い・本・人

リアルなメッセージを聴くために 西岡昌一郎

特集シリーズこの三冊!

聖書の世界に迫る聖書考古学を知るためのこの三冊!

山野貴彦

◆本・批評と紹介

川崎公平著 使徒言行録を読もう 吉村和雄

ダイアン・ラングバーグ著/前島常郎訳

パワハラ・セクハラとキリスト教会 久保木聡

デービッド・ワトソン&amp;ポール・ワトソン著/松村 隆訳/福田 宗監修

全信徒祭司の教会を建てあげる 島先克臣

大井 満責任編集 全地に満ちる主の栄光 岸本大樹

原口尚彰著 メタファーとしての譬え 浅野淳博

川中 仁編 宗教と終末論 金井美彦

大島 力著 イザヤ書を読もう 上 藤掛順一

吉村和雄著 イエスの歩み31 井ノ川勝

◆既刊案内

◆書店案内

# 説教の聴き方

語られ、聴かれ、生きられるみことば

朝岡 勝著

「説教で満たされない……」と悩む信徒たちへ  
「説教が伝わらない……」と悩む牧師たちへ



説教の語り手と聴き手のあいだに、なぜ「ズレ」や「すれ違い」が起るのか？  
牧師と信徒が「説教」をめぐる対話をするためのガイドブック。

● 四六判・並製・216頁・定価1,980円

既刊好評発売中！

## 教会に生きる喜び

牧師と信徒のための教会論入門

朝岡勝著

まことの羊飼いの声が聞こえていますか？  
神を愛する信仰者の共同体でありながら、時に苦悩と躓きをもたらす地上の教会。その本質と使命を聖霊論的な思索から問い直す「教会再発見」への旅。



● 四六判・並製・244頁・定価1,980円

# 宮城学院に連なる人々

ドイツ改革派の理念の継承

佐々木哲夫編

学院創設の土台を見据える

合衆国ドイツ改革派教会による設立以来130年を超える歴史を有する宮城学院。キリスト教信仰に基づく建学の精神は今日までどのように受け継がれてきたのか。学院揺籃期の生徒卒業生の進取の気性に富む実像が窺える論考集。

● A5判・上製・158頁・定価2,200円



好評により重版出来！

## 教会実務を神学する

事務・管理・運営の手引き

山崎龍一著

教会的な思考の力を身につけよう！

教会の「総務」にあたる事務・管理・運営の入門書。牧師の待遇や会計実務の考え方、アーカイブスの重要性、教会の宗教学者人格取得の意味など、牧師・役員になったときに必ず知っておくべき実務や法律の基本を分かりやすく解説。牧師と信徒が共に教会を形成するために必携の書！



● 四六判・並製・222頁・定価1,980円





## リアルなメッセー지를聴くために

西岡昌一郎

わたしがキリスト教に関心を持ったのは、50年も前になるが、1970年代の高校生の頃だった。書店で遠藤周作の「ぐうたら人間学」（1974年）を買い求め、ユーモアと人間味ある内容に、次々とそのシリーズを読んで楽しんでいった。

やがてカトリック作家だと知り、クリシタン迫害やイスラエル巡礼を題材とした「沈黙」（1966年）「死海のほとり」（1973年）を読み、次第に遠藤周作が描く「イエス」像に興味を覚えた。とくに「イエスの生涯」（1973年）と「キリストの誕生」（1978年）は当時の聖書を踏まえた作品であり、わたしには史的イエスならびに原始キリスト教団の信仰を理解するための入り口となった。十字架のイエスを見捨てて逃げ出した弟子たちが、その後イエスを神の子と信じるに至った過程を通して原始キリスト教団がイエスをどのように信じていったのかを考えさせられた。

大学では聖書学に関心を持った。福音書を歴史的に理解して

いくために伝承史、様式史、編集史的な観点から福音書を読む面白さを発見した。今となってみれば、これは遠藤周作の作品が思わぬ始まりだったのだと思う。

原始キリスト教団において伝承されてきたイエスに関わる言葉とその行動が、時代の変遷と共に口伝承から文書化されていく時期を迎え、それらがさらに編集されていく段階があった。その過程と原始キリスト教団の置かれた歴史的状况の中で、イエスの言葉がどのように語られ、どのように伝えられようとしていったのか、その意図するところを受け止めるために聖書と向き合うことを教えられた。これは牧師になってからも変わらない重要な視点である。教理的に聖書を語ることを否定するものではないが、しかし、この視点は聖書からリアルなメッセージを聴くために欠かせないと思っている。

（にしおか・しょういちろう＝日本基督教団千葉教会牧師）



## ▼シリーズ この三冊！

# 聖書の世界に迫る聖書考古学を知るための

## この三冊！

### 山野貴彦

（やまの・たかひこ）  
聖公会神学院専任教員・新約聖書学／新約聖書考古学

聖書は架空の世界を舞台にした創作小説ではなく、古代西アジアや古代地中海世界の具体的な場を舞台とする壮大な書物です。これらの地域の歴史・文化を知ること、聖書世界のイメージはますます活き活きとしたものになります。それを、物質文化という、非常に明確な方向性から促進する学問領域が聖書考古学です。

聖書考古学と呼ばれる学問は、かつては聖書に記された出来事が歴史的事実であると実証するための取り組みで

ある時代もありました。しかし、聖書

学や聖書考古学の研究が進めば進むほど、考古発掘調査の示すデータと聖書の記述がしばしば一致しないという結論が導き出されることとなりました。そのような中、聖書考古学はかつての目的から離れ、「古いモノやコトを考える学問」という考古学の基本的な精神で以て聖書の舞台となった地域を研究する学術領域となりました。

これからご紹介する書籍の著者たちによれば、聖書考古学とは「聖書の舞

台になった西アジアに残る古代遺跡の発掘調査をもとに、聖書時代の社会や文化を研究する学問」（月本昭男）であり、「聖書の歴史的記述の深い理解に達するため、特に聖書の舞台となった古代パレスチナを中心とした考古学」（長谷川修一）と定義されるものであり、筆者も基本的にそれらの定義に同意しています。

様々な出土物を通して聖書の世界観を示す聖書考古学は、調査・発掘の技術と知見の進化もあつて海外ではかなり盛況の分野です。また、日本でもまだ数は少ないものの、優れた論文や入門書が普及しつつあります。その聖書考古学に触れるための良書を分かち合わせていただきます。

①月本昭男『目で見る聖書の時代』日本キリスト教団出版局一九九四年

聖書の中で言及されている物品や飲

食物、建造物、道具などはどのようなものだろうか？そのように思われたことはないでしょうか。現在でも用いたり食べたり飲んだりするものについては、想像するのも難しくはないかも知れません。とはいえ、同じ言葉でも指し示すものは時代や場所が変われば異なるものです。たとえば「パン」一つとっても、現在でも様々な種類がありますし、国が変われば品も相当変わります。聖書の中に出てくるパンはどのような形状で、どのような窯で焼かれていたのか、どのような器が作られて料理が盛られていたのか、皆様も想像されたことはないでしょうか。他にも、様々な生活環境や社会状況を考古学から知ることが出来ます。本書はそれらについて多くの情報を与えてくれます。構成は以下のようになっています。

## 第一章 遺跡に残る生活の跡

## 第二章 出土品に見る生活と文化

## 第三章 考古学資料と歴史の再発見

## 第四章 イエスから初代教会へ

## 第五章 古代イスラエルと周りの人々

## 第六章 神々の世界と聖書の信仰

それぞれの項目ごとに、主題に則した写真やイラストが数多く掲載されており、イメージが膨らみますし、的確にまとめられた解説によりその理解が深まります。

聖書の言葉と歴史的状况を考古学調査の成果と比較しながら進められる記述を通して、わたしたちは、旧約聖書や新約聖書各文書の伝承の担い手たち、記者たち、あるいはまた、登場人物たちがどのような風景を見て、どのような世界観を持っていたのかを味わうことができます。刊行から三十年経つてもなお書店に並ぶロングセラーになっているのも納得の好書です。

## ②長谷川修一『聖書考古学 遺跡が語る史実』中公新書二〇一三年

聖書の記述、ことに旧約聖書の記述には神話や民間伝承、歴史などが織り交ぜられた、いわゆる「物語られた歴史」が見られます。本書は、史料としての聖書という側面から聖書、ことに旧約聖書の歴史を中心に聖書考古学の考え方や適用について多くの示唆を与えてくれるものとなっています。旧約聖書諸文書の執筆事情についての解説から始まり、その後、聖書考古学は何を明らかにするものであるのか、また、その方法論はどのようなものであるのか、そうして研究成果としてどのようなことが判明しているのが説明されています。

新書版というサイズであるにもかかわらず、詳細な解説があり、写真や図版、地図なども効果的に配置される、

たいへん豊かな内容の書物となつています。第一章の旧約聖書諸文書の成立事情についての概説は旧約聖書という書物を読む際に重要な視点を提供してくれています。考古遺物の評価の仕方、西アジアの遺跡に特徴的なテル（遺跡丘）の性格、発掘調査している遺跡の年代決定のために重要な層位学と型式学などについて解説されている第二章

は、聖書考古学はもちろん西アジア地域以外の考古学に関心があるかたにも読みごたえがあるものと思います。第三章以降は、アブラハム、イスラエルの民のカナンへの定住、イスラエル王国時代、ユダヤ教とキリスト教が成立してゆく時代が「史実性」をキーワードに、聖書本文と考古調査の成果とが比較検討されながら進められてゆきます。歴史的に確認できること、歴史的に確認できないこと（また、そうだとすると、なぜそのような物語が編

まれるようになったのか）が詳細に言及されてゆきます。終章は「聖書と歴史学・考古学」と銘打たれ、この主題の現在と将来の展望について、まさにこれらの領域を専門としてこられた著者の語りを見ることが出来ます。聖書考古学を学ぼうとするかた、関心のあるかた必読の一書と言えます。

### ③ F・G・ヒュッテンマイスター／ H・ブレードホルン『古代のシナゴグ』（山野貴彦訳）教文館二〇一二年

最後のお勧めの書物は、筆者もかかわったもので、ドイツの代表的な古代シナゴグ（会堂）研究者二人が日本向けに書きおろしたシナゴグについての解説書です。

シナゴグは古代から現代に至るまでユダヤ人にとって生活の中心となる施設です。また、新約聖書を見ますと、ナザレのイエスが安息日ごとに訪ねて

驚くべき教えやわざを行う場であったり、使徒パウロが旅先でまず訪ねる場であったりしたこともよく知られています。

本書ではその施設がどのようなものであったのが文献学と考古学の両面から詳細に解説されています。聖書、古代のラビ文献、碑文といった文字資料でシナゴグはどのような表記で言及されていたか、また、古代のシナゴグに特徴的な床モザイク芸術や建築様式にはどのようなものがあるのかなどについて、南レヴァント（ゴラン・ガリラヤ・サマリア・ユダヤ地方を含む、この地域の地理学的総称）で発見されている多くの考古情報を中心に説明されます。現在に至るまでのユダヤ教の会堂に、また、キリスト教の教会、さらにはイスラム教のモスクにも影響を与えている古代のシナゴグは実に多彩な姿を有しており、その最



### 『目で見る聖書の時代』

月本昭男：著  
横山 匡：写真  
日本キリスト教団出版局  
1994年刊  
B5判 136頁  
1,760円

初期の姿を伝える本書の内容は、共同体を形成するとは何か、集いの場とは何か、礼拝堂とは何か、といったわたしたちの生活においても重要な事柄について想いや考えを深めるものとなっています。著者陣が集めた貴重な写真の数々、著者陣と筆者とで相談しながら作成した詳細なシナゴークの分布地



### 『聖書考古学——遺跡が語る史実』

長谷川修一：著  
中央公論新社  
2013年刊  
新書判 237頁  
924円

図など、様々な視覚的情報も豊富にちりばめられており、イエスと人々のまじわりがあつた風景を想起させてくれます。優れた解説と写真や図版、地図や年表などによつて聖書の時代の状況を想起させる今回の三冊の書物を通して、



### 『古代のシナゴーク』

F.G. ヒュッテンマイスター、  
H. ブレードホルン：著  
山野貴彦：訳  
教文館  
2012年刊  
A5判 146頁  
3,190円

読者各位の聖書世界へのイメージはますます深められることでしょう。そしてそれにより、聖書のみ言葉がますます皆様の想いと信仰にさらに深く迫ってくる、そのような豊かなときを味わわれるのではないかと思います。

使徒言行録はおもしろい！  
これは今を生きる私たちの物語だ

〈評者〉 吉村和雄

「使徒言行録はおもしろい」という帯の言葉に背中を押されるように読み始めました。

実際に読んでみて……面白いです。これまで使徒言行録を読んでいながら、今ひとつイメージがはつきりしなかった出来事やそこに登場する人々が、本書の中では実に生き生きとした姿を見せてくれています。「美しい門」のところで物乞いをしていた足の不自由な男や、ユダヤ人たちから石を投げつけられながら彼らを恨まず、その赦しを祈ったステファノなど、それぞれの人々や彼らに起こった出来事の詳細、またそれが教会の宣教にとってどのような意味をもっており、現代を生きる信仰者であるわたしたちに何を語りかけているかまで、著者の丁寧な説き明かしの言葉に心を動かされつつ読み進められて、退屈しません。

## 使徒言行録を 読もう

川崎公平



## 使徒言行録を読もう

川崎公平著



本書は著者である川崎公平牧師が、自身が仕える鎌倉雪ノ下教会で毎月一度開かれている教会祈祷会で、二〇一七年から二〇二三年までの六年間、六〇回にわたって語り続けた話を、文章にしたものです。全部は載せきれないので、半分以上をそぎ落とすことになったと、後書きに書いてありますが、本にする以上やむを得ないことと思いつつ、もったいないことだと思わされます。

本書が面白いのは、著者自身が面白いと思いつつ使徒言行録を読み、それを説いているからです。「『新約聖書の中で一番おもしろい』と断定する勇氣はありませんが」と言いつつ、心中密かにそう思っているのではないかと推測します。自分が語ることに自分自身が心を動かされていることは、情熱をもって面白く語るためには必須のことです。

もちろん、その面白さは表面的なものではなく、深い聖書の読みと、信仰的な洞察に支えられたものです。本書を読んでいると、著者が聖書の言葉をひとつひとつ丁寧で黙想し、そこから、二千年前にこの地上を生きさせた信仰者の姿と、彼らを支え、導き続けられた聖霊のお働きをきちんと読み取っていることがよくわかります。そしてそれは現代を生きるわたしたちの目を、今も働いておられる聖霊のお働きに向けさせます。ですから過去の物語が、単なる昔話ではなく、わたしたちに深く関わる話になるのです。

同時に、この本では、著者の対話の姿勢も明確です。聖書を読んで疑問に思うこと、受け入れがたいことをも、正直に書いています。献げた献金について嘘の申告をして裁かれた夫婦に関しては、神の前に立つ畏れを語りつつ、な

ぜ彼らが裁かれ、同じような罪を犯している自分たちが赦されているのかという疑問を、正直に述べています。著者のそのような姿勢もまた、そこで示されている問題を、わたしたち自身の問題として考えさせるのです。

これは講話であって説教ではありません。「主はこう言われる」という宣言がなされるわけではありません。それだけに、著者の言葉に心を動かされつつ一緒に聖書を読み、考えることができます。同時に、ここでなされているような、聖書を読み解く作業をもう一歩進めれば、説教になります。ですからこの本は、この文書から説教をしようとする者にも、大きな助けになるものだと思います。

(よしむら・かずお||単立・キリスト品川教会名誉牧師)  
(四六判・二二四頁・定価二七五〇円・日本キリスト教団出版局)

## 押田成人 遊行の巡礼者

宮本久雄 / 石井智恵美 編



信州に高森草庵をひらき、祈りと労働、思索の日々を送った押田成人神父。病を同伴者として歩んだ生涯と、出逢いを通して培われたその思索をたどる。

四六判並製・176頁・定価2200円

## 不安と孤独の処方箋

病の教訓、聖書のヒント

石丸昌彦

誰もが抱える不安と孤独。これらはメンタルヘルスを脅かす一方、不可欠な場合もある。クリスチャンの精神科医が伝授する、こころの健康を守るヒント集。

四六判並製・224頁・定価2640円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

<https://bp-uccj.jp>

## 虐待被害者に学ぶ

〈評者〉久保木聡



パワハラ・セクハラと  
キリスト教会

権威とその乱用

ダイアン・ラングバーク著

前島常郎訳



著者ダイアン・ラングバークはアメリカ聖書協会のトラウマ顧問委員会の副委員長を務めた経験もあり、50年に渡り性的虐待の被害者に接してきた心理学者、カウンセラーである。著者の虐待被害者への関わりについて次のように述べている。「彼女の生徒となり、神に創造された心に傷を持つ人間・神の作品である多くの被害者から学びました。来訪者と膝を突き合わせて、「あなたの体験を私に教えてください」と尋ね学んだのです。」(13頁)本書に一貫して流れるのは、虐待被害者に学ぼうとするその姿勢である。ともすると、私たちは「援助の必要なかわいそうな人を教導かなければならない」という視点で接してしまうかもしれない。そうなる、と、どれだけ虐待についての知識があっても、被害者と信頼関係を築くことは極めて難しくなる。

本書の全体像を要約しているのは、次の文章とも言える。

「現代のキリスト教界を見渡すと、教会が危うくなるとそのエネルギーをしばしば組織を守ることに向かう傾向があることが分かります。私たちは、イエス・キリストを愛し礼拝する以上に、組織や自分の教会を愛し礼拝しています。それで、共謀し、口封じをし、中傷し、脅迫します。」(266頁)本書のサブタイトルは「権威とその乱用」とあるが、権威が正しく用いられる際は、イエス・キリストを愛し、礼拝することが最優先となる。しかし、イエス・キリストよりも組織や自分の教会を愛し礼拝しているならば、権威の乱用がおこなわれやすくなる。その際、虐待がおこなわれても、共謀し、口封じをし、中傷し、脅迫することによって隠ぺいへと進みやすい。それに対し、著者はこのように語る。「ビジョンが膨らみ、要求されることが多くなると、奉仕者はキリストではなく、仕事の要求に従順になります。(中略)品性より業績が大事になっているなら、

優先順位を間違えています。」(213頁)と。つまり、教会内で虐待、パワハラ、セクハラが起こっても、黙っておいたほうが、宣教が進む、という発想でいるのなら、キリストよりも所属組織、自分の教会を愛しているにすぎず、キリストに似た品性を目指すより業績を大事にしていることになる。

本書は、教会にて、虐待、パワハラ、セクハラがおこなわれるなら、何よりもまず声をあげることが勧められる。但し、虐待被害者のケアについても、加害者に対してどのように接するかも本書はほとんど語らないことには面食らった。それは(邦訳はないにせよ)著者がすでに性的虐待の被害者へのカウンセリングやトラウマへの対処について別著があるため、内容が重複するのを避けたのもあるだろう。

しかし、著者は大事な道しるべを提示している。「私が想像を超えた虐待・暴力の話を初めて聞いた時のように、私たちは互いに話を聞き、学び合わねばなりません。それはイエスの受肉にも似た働きです。それをしないと、私たちは主とそのからだのお役に立つことはできません。」(140頁) そうなのだ。「虐待」という決まった型があるわけではなく、人それぞれにいろんな虐待がある。そうであるなら、初めて出会う思いを見失うことなく、その虐待の現実に真摯に向き合い、ただキリストを仰ぎ、互いに学び合う姿勢をもって誠実に歩むしかない。そのように、主とその体である教会に仕えることができると、強く思わされていく。

(くぼき・さとし) 日本ナザレン教団 大阪桃谷教会牧師  
(四六判・二八八頁・定価一九八〇円・ヨベル)



## 聖書註解 ペトロの手紙一

吉田新  
YOSHIDA Shin



### 本邦初の 本格的註解書!

国内外の同書簡の研究、註解書を踏まえつつ、ギリシア語原文から綿密に釈義、テキストの影響史=解釈史までも射程を広げて考究している。

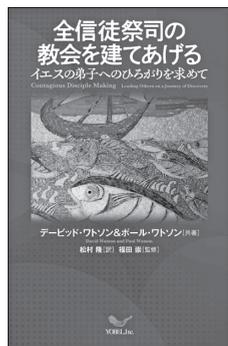
菊判・上製本  
定価 8,580 [本体 7,800 + 税] 円  
ISBN978-4-86325-160-1



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

## 福音書が語る 宣教への実践とは?!

〈評者〉 島先克臣



### 全信徒祭司の教会を 建てあげる

イエスの弟子へのひろがりを求めて

デービッド・ワトソン &  
ポール・ワトソン 著

松村 隆記  
福田 崇監修

この書は最初のページから驚きで満ちている。宣教の困難なあるインドの地域において、5年間で千の教会が開拓されたとの報告だ（まえがき）。そのためには、教派神学も文化の影響を受けているので神学さえも相対化し、聖書だけに聞いていくという出発点が必要だと言う（1-2章）。当然ながら西洋で発達し世界に定着した「会堂・職者・プログラム」中心の教会の在り方、しかもスモールグループでさえ望ましい形だと言わず、その形は、福音の本質と愛に基づくキリストへの従順に根差した現地の弟子たちによって生み出されるべきだと著者は語る（3-7章）。

また著者は、「キリストに従う弟子」と「教会の伝統や教えに忠実な改宗者」の違いを説明した上で、教室での講義による今までの知識中心の働き人の養成方法から、日常

生活の中で主に従う歩みを共有する指導者養成方法へ切り変えるようチャレンジする（第8-9章）。

以上の第一部では、キリスト教と教会、また、指導者養成に対する私たちの考え方やイメージがいかに文化の影響を受けているかを明らかにしている。そして、異文化宣教だけではなく、自国の宣教と教会形成に携わる者たちが今一度、変わりつつある自分たちの文化と今置かれている社会を見つめ直し、イエスの愛に根差して考え、行動するよう著者は促している。

10章から始まる第二部では、より具体的に弟子を育てる原則を述べている。まず、弟子を育てようとする前に、自らが日常生活のすべての分野で主に従う歩みをする事が述べられる。そして、祈りに献身すること、人が社会の中で属しているグループを見極め、その人をグループから引



新感覚の図書案内

# 読みつっつき、 生きつつ読む

自伝的読書論

朝岡勝 [著]



「本」との出会い、  
そこにある「ことば」と  
「人格」との出会い。  
読書という人格的体験に  
秘められた出来事に、  
どれほど人を成長させる  
力があるのか。

「本」の力を再発見する、  
体験的読書録！

四六判・並製・216頁、定価1,650円(税込)

キリスト新聞社 since 1946

〒112-0014 東京都文京区関口1-44-4 7F  
03-5579-2432 support@kirishin.com

き離すのではなく、グループ全体のことを考えること、(ビジネスも含めて) 地域に仕えること、などを挙げてい(る (10-13章))。13章で心に残った一言は、「地域に仕える奉仕をしないで、弟子を育てる運動をすると、キリストの命令に従わない歪んだ教会を建てることになります」(150頁) だった。

著者は「平和の子」に関してページを割いている。それは福音に心を開く人々で、その人たちを見出すことが重要だという。「平和の子」は、祈りと人を助ける具体的な愛の実践によって見出せると語る(14章)。次が具体的なグループの持ち方(15章)、そしてグループが教会に移行することに触れる(16章)。著者は、教会のリーダーシップについて詳細に述べ(17章)、リーダーを育てるための継

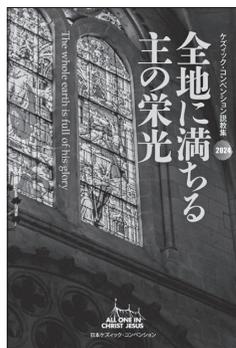
続的なメンタリングの重要性について強調し(18章)、本書を閉じている。

読後の感想は、「私たちは本気で、福音書が語るような宣教を実践する気があるだろうか」である。神学校を出た牧会者が導く教会で、会堂に向かい、委員会と集会、そしてイベントをこなしているほうがはるかに楽なのだ。それを根底から見直すよう迫る本書はあまりにもチャレンジが大きすぎると感じる可能性がある。しかし、本気で日本のキリスト教会の現状を変えようと願う方々、特に、教会や教派、そして神学校の指導者の方々には、是非一読をお勧めしたい。

(しまさき・かつおみ) 聖書を読む会・総主事  
(A5判変形・三〇四頁・定価一九八〇円・ヨベル)

## 神共にいますを力強く感じる 共鳴と共感

〈評者〉  
**岸本大樹**



2024 ケズイック・コンベンション説教集  
**全地に満ちる主の栄光**  
大井 満責任編集



所属教派も出身神学校も異なるが、日本基督教団扇町教会で長くご奉仕された辻中正一先生と共に働く機会があり、その際、辻中先生から大阪ケズイック・コンベンションに参加するよう促されたのが、私にとってケズイック・コンベンションに関わるきっかけであった。

ケズイック・コンベンションに参加するようになったものの、私が聞いた限り、そこで語られたメッセージのすべてが良かったわけではない。けれども、神の恵みに圧倒され、魂が揺さぶられるメッセージが幾つも語られてきた。そのようなメッセージの一つを本書の中から紹介する。

それは「臨在の中を共に歩む」という、郷家一二三牧師のメッセージである。冒頭では、コロナ禍での礼拝閉鎖を取り上げ、次のように語られている。

なぜ対面の礼拝を閉じたのか。礼拝に臨在される神を信じていたのか。神がわたしたちと共におられ、臨在してくださる。この確信は、万事が順調であり祝福されているときは揺るがなくて思っても、社会全体にコロナが蔓延すると、見えないウイルスへの恐れと、感染をとがめられる危惧から、「安息日を覚えてこれを聖とせよ」との十戒を破ってしまうのか。わたしたちは礼拝に臨在される神を正しく理解していたのか。(49ページ)

コロナ禍にあつて何が何でも礼拝を強行することが良いとは思わない。しかし、そのことを踏まえつつも、「わたしたちは礼拝に臨在される神を正しく理解していたのか」という問いかけには心を打たれた。必要以上に恐れ、神の臨在の中で歩んでいるということを忘れていたのではない

かということ、私自身が問われたような思いがした。  
このメッセージでは、マタイによる福音書に記された臨  
在に関する3つの箇所を通して、神の臨在の中を共に歩む  
とはどういうことなのか、力強く語られている。そし  
て、締めくくりの言葉は次のようになっていいる。

本質的な信仰の問題は、神の臨在をどう信じ、どこに見  
出し、「神はわれらと共におられる」という喜びに生かさ  
れてきたかです。正直に言えば、わたしの場合、まだらな  
信仰でした。いつまで続くのか。どうして集う人が減って  
行くのか。いったい自分の何が悪いのか。どこに、何に問  
題があるのか。そのように自分を責め、周囲を厳しく見て  
いた。その時も、神の臨在のなかに歩む恵みは変わる

ことがなかった。コロナがどんなに猛威を振るう緊急な時  
も、教会がひたすら耐えてきたと思っていたこの4年間も、  
神の臨在、共にいてくださる憐れみは、変わらなかつた。  
教会の全ての業と共に、我々一人一人といつも共に、主は  
共にいてくださった。そうです、主は我らとともに最初か  
ら、いつも、罪を犯す時も、世の終わりまで、共にいてく  
ださるお方です。(53〜54ページ)

慰められ、励まされるメッセージである。本書にはこの  
ようなメッセージが他にも掲載されている。

(きしもと・だいき)大阪クリスチャンセンター代表役員

大阪聖書学院学院長、旭基督教会牧師

(四六判・一四四頁・定価一六五〇円・ヨベル)

ドイツ敬虔主義著作集のご案内



シュペーナー 山下和也「訳」——「本邦初訳」【第2回配本】  
**新しい人間** 読みやすい言葉で

四六判上製・四〇〇頁・三〇八〇円

地上的、生得的なこの世にあって、  
天天的、霊的生活はいかに現出するのか。  
ルターに次ぐ神学者と目されながら今日では忘れ去  
られていく改革派ルター主義者シュペーナーは、ドイ  
ツ敬虔主義の要ともなった人物。その説教集成のひとつ  
である本書は日本におけるシュペーナー著作物の  
初の、完全な形で翻訳出版として目が離せない。著  
者による膨大な訳註がこれを後押しする。

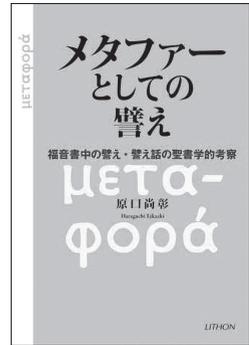
- ドイツ敬虔主義著作集** 全10巻の構成と訳者・各巻四六判上製
- 第1巻 シュペーナー「敬虔なる願望」佐藤貴史、金子晴勇訳
  - 第2巻 シュペーナー「新しい人間」山下和也訳【既刊】三〇八〇円
  - 第3巻 シュペーナー「再生」金子晴勇訳
  - 第4巻 フランケ「回心の開始と継続」菱刈晃夫訳【第5回配本予定】
  - 第5巻 ベンゲル「グノーモン」と「歩んだ道と言葉」金子晴勇訳
  - 第6巻 ツィンツェンドルフ「福音的真理」金子晴勇訳【第3回配本予定】
  - 第7巻 エーティンガー「自伝」喜多村得也訳【第4回配本予定】
  - 第8巻 エーティンガー「聖なる哲学」喜多村得也訳【既刊】二二〇〇円
  - 第9巻 テルステーゲン「真理の道」金子晴勇訳
  - 第10巻 ドイツ敬虔主義の研究

ご予約承り中

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税込)

譬え・譬え話を味わうための  
良き導き手

〈評者〉 浅野淳博



メタファーとしての譬え

福音書中の譬え・

譬え話の聖書学的考察

原口尚彰著



原口尚彰氏が著した『メタファーとしての譬え——福音書の中の譬え・譬え話の聖書学的考察』は、福音書研究の中でも一つの重要な位置を占める譬え（話）に関する研究のための重要な入り口を提供している。本書は著者が継続してきた譬え研究の成果である。

第一章は「譬え」に関する研究史を扱う。本格的な批判的研究者としてのユーリヒャーから始まり、ブルトマンに起因する伝承史的研究、ヴァイア、ファンク、リクールなどに代表される文学的研究、フックス、ユンゲル、ヴェーダーなどが導いた神学的研究、そしてドナヒュー、スコット、ツイマーマンなどが中心となる釈義的研究を丁寧に概観する。

第二章で著者は、譬えの定義を「あることを異なった事柄に準える文学的形式：未知のことを既知のものに對比し、

不可視的なことを可視的なことに置き換えて修辭的效果を上げることが目的とする」（二〇頁）表現方法とする。そして修辭学上、譬え（直喩）とメタファー（暗喩）の機能上の違いを限定的とする。さらにユダヤ教的あるいはヘレニズム的背景を説明しつつ、譬え・譬え話が置き換えという作業に特化して新たな意味を創出しないとする従来の理解に対して、むしろ置き換え作業が新たな意味の発見につながる」と主張する。

第三章では、ストーリー性のない短い成句としての譬えが考察される。譬えはその性格上、詩文において頻繁に用いられ、マタイ福音書はメシア預言としてこれを頻用する。ルカ福音書の「ザカリアの預言」／「シメオンの預言」にも登場し、ヨハネ福音書の詩的言語との親和性も高い。著者はここで共観福音書から洗礼者ヨハネが語る譬えを紹介

するが、それらは悔い改めを求め、終末の裁きを告げる。ヨハネ福音書は洗礼者ヨハネがイエスの死の意義を述べる際に用いる。

さらに三章の後半においてはイエスによる譬えが、そして四章ではこれに続きストーリー性のあるたとえ話——これはイエスに特有——が、それぞれ民衆と弟子らに向けられたガリラヤでの教え（農耕、漁労、家事労働に起因）、おもに弟子らに向けて語られたエルサレム途上での教え（宣教活動への準備）、律法学者や祭司ら論敵に向けられたエルサレムでの教え（告発と非難）に分けられて多数紹介され、釈義が施されている。

五章では、イエスの譬え話が修辞学的に分類・評価される。古典の修辞法は演説を「演示」（祝祭や葬儀）、「助言」（共同体への勧告）、「法廷」（法廷での弁論）という三つに区分する。この分類によるならば、神の国の到来に関する譬え話は演示的であり、弟子としての生き方に関する譬え話は助言的であろう。そして預言者や宣教師を受容しない態度への批判に関する譬え話は法廷的となる。さらに本章は、イエスの譬え話を演説における構成という点からも評価し、それが序論、叙述、論証、結語からなることを指摘している。

そして六章では、イエスの譬え話に対する聴衆の反応に注目し、これが譬え話の解釈において重要な鍵となる点がかれまで看過されてきたことを指摘している。

本書は、読者が福音書における譬えと譬え話を概観して理解する手引きを丁寧に行っている点で、非常に有用であり高く評価される。最後になるが、読者にはこの良書を導入として、*yoan*にC.L. Blomberg, *Interpreting the Parables* (Nottingham: Apollos, 2nd edn, 2012) をとおして譬え話の具体的な解釈方法を学ぶ機会を持つて頂きたい。

（あさの・あつひろ 関西学院大学教授  
A5判・一九一頁・定価二二〇〇円・リトン）

## 神学の諸領域をまたぐ 重要な講演集

〈評者〉**金井美彦**



### 宗教と終末論

川中 仁編



本書は上智大学キリスト教文化研究所2023年度聖書講座の講演録である。

第一講は大貫隆「神の国はあなたがたの〈内面に〉——ルカ伝17章21節の *εὐ τοῦ* と禿鷲の言葉（ルカ十七37）」。  
大貫氏の文献学的厳密さと一方の語り口の軽やかさに心打たれつつ読み進む。17章21節は神の国は空間的にどこにあると言えるものではなく、あなたがたの「間にある」とか「手の届く範囲にある」「あなたがたの中に」あるなどと訳される議論のある個所だが、大貫氏はルカの編集による現在の文脈では「あなたがたの内面にある」とするのが妥当であると主張する。その論証が非常に興味深い。誤解を恐れずまとめると。ルカ17章21節の一人ひとりの「内面に」という訳がルカの文脈では正しいとしうる根拠が、なんと17章37節の、人の子がどこに現れるのかとの弟子たちに問

いに対するイエスの「屍体のある所には、禿鷲も集まるものだ」という格言的な応答にあるというのである。詳細は省くが、この一読して不穏不吉な格言が、なぜ神の国のありかを告げる言葉と繋がるのか？氏はこの格言の「格言性」をつぶさに検討し、西洋古典に精通する大貫氏ならではの執念でプルタルコス『倫理論集』九一八Cに到達する。プルタルコスは禿鷲がいかなる場所からでも屍肉の存在を感知し、来集する姿を無記的に描写している。これは、この禿鷲（に限らないが）の能力の圧倒的な高さを述べている。要するに、禿鷲が屍肉に集まることは、不吉さや不信仰者への罰などでは全くなく、かえって神の支配が一人ひとりの人間に直に及んでいるのだということをも禿鷲の嗅覚の鋭さによって象徴させているのだ。そして大貫氏は、この禿鷲が一人ひとりの体に直に向かうことと、神の国が

一人ひとりの「内面に」あるということが呼応しているのだとみる。したがってより積極的に「内面に」という訳を支持しようとする。神の国の「場所」を問うにあたり、実に説得的な論証であった。

第二講は福嶋揚「破局の中の希望」。福嶋氏は現代世界の危機をきわめて真剣かつ深刻にとらえておられ、現在を「破局」に直面する時代とみる。要するに近代化の原動力である資本蓄積から始まった、資本・国家・ネイションが一体となったアクターたちの無制限の競争・闘争によって自然も人間も搾取され、すでに崩壊寸前であるとの認識に立つ（柄谷行人、斎藤幸平、パブロ・セルヴィーニユ、ラファエル・ステイブンス、鈴木宣弘、ジェイソン・ヒツケルらとともに）。一方、キリスト教は終末と破局を分けており、本来終末論とは破局を織り込んだうえでの「希望」の表明であり、しかもそれは旧約のイスラエルの歴史から続くものであり、けっしてニヒリズムではない。それゆえ、この破局の危機を深く認識し、その上で、それとは別の世界を展望してきた神学者、たとえばカール・バルト、ユルゲン・モルトマンらの近・現代への批判的言説の再評価、さらに、資本の論理とは別の、しかしそれなくしては人間が生きて得ない「農」（広い意味で）の回復にまで言及し、「希望」を見出す。総じて、著者は危機感に満ちてい

るが、だからこそ、イエスの描いた神の国、すなわち破局を超える希望を語ることに喫緊の課題であるとの認識に、私は全面的に同意する。

第三講、遠藤勝信「創造と終末―創造物語の解釈とヨハネの黙示録の終末論」。この論考で著者は旧約、第二神殿時代のユダヤ教文書、そして黙示録において、いかに創造論の解釈が重要な役割を果たしてきたかについて、実に丁寧に解説されている。紙幅の都合上、詳細は語りえないが、神の創造論の解釈は終末論と密接にかかわることだ。氏はまず、神の創造の解釈について詩編や第二イザヤのテクストの役割の意味を検討し、さらにその後のユダヤ教黙示文学（ヨベル書、エノク書）における創造物語の再話、そして黙示録の終末論を検討する。そして黙示録の神の呼称表現の二分類（神の永遠性の表現と、創造と終末のセツトの表現）の検討を通じ、ついに創造は必然的に（とまでは著者は言っていないが）終末へと拡張されるのだと述べる。評者自身、黙示録の講解説教の途上にあるが、氏の論考は大きな刺激となった。

本書は実に、神学の諸領域をまたぐ重要な講演集である。

（かない・よしひこ）日本基督教団砩教会牧師、立教大学講師

（四六判・二一五頁・定価三二〇〇円・リットン）

# 本書によって、イザヤ書全体の構造やストーリーがわかるように

〈評者〉藤掛順一

本書は、イザヤ書第一章から三九章、いわゆる「第一イザヤ」を読むための手引きです。

イザヤ書には、「インマヌエル預言」（七章）をはじめとして、イエス・キリストの到来の預言として読むことができ、箇所がたくさんあり、私たちはそれらを特にアドベントからクリスマスまでの時期に喜びをもって読みます。また「ぶどう畑の歌」（五章）は、ぶどう園を題材とした主イエスのたとえ話の土台となっています。「彼らはその剣を鋤すきにその槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げずもはや戦いを学ぶことはない」（二章四節）は、ニューヨークにある国際連合ビルの広場の壁に刻まれているそうです。悲惨な戦争が続いているこの世界に平和の実現を祈る私たちを導く希望の言葉です。「その時、見えない人の目は開けられ 聞こえない人の耳は開かれる。……荒れ野に水が



イザヤ書を読もう 上  
ここに私がおります

大島 力著



砂漠にも流れが湧き出る。……主に贖い出された者たちが帰って来る。歓声を上げながらシオンに入る。その頭上にとこしえの喜びを戴きつつ。喜びと楽しみが彼らに追いつき 悲しみと呻きは逃げ去る」（三五章五〜一〇節）も、終末における救いの希望を語っています。このようにイザヤ書は、（第一イザヤだけでも）「珠玉の言葉」の宝庫であり、新約聖書に引用されている言葉も多数あります。

しかし私たちはそれらの「珠玉」を断片的に眺めるばかりで、イザヤ書全体の構造や繋がりが、各部分の結びつきを捉えることができていないのではなかろうか。つまり、イザヤ書は私たちにとって、様々な宝石が雑然と入れられている宝石箱のように感じられているのではないのでしょうか。

本書は、その宝石箱の中身を分類し、整理し、どのよう

な宝石がどこにあり、それぞれがどのように繋がっているのかを示してくれます。わが国におけるイザヤ書研究の第一人者である著者だからこそなし得る業です。本書によって、雑然としたイメージだった宝石箱に仕切りが設けられ、どこにどのような宝石がどのような輝きを放って存在しているのかはつきりします。そして同時にこの宝石箱が、全体としてあるストーリーを持つており、メッセージを持つていることが示されるのです。

さらには、第二イザヤ(四〇章から五五章)、第三イザヤ(五六章から六六章)との繋がりが、その先取りも第一イザヤの中にあることが示されます。時代も書いた人も全く違う三つの部分から成っているこの書物ですが、やはりその全体が「イザヤ書」と呼ばれることが相応しいことが分かるのです。

イザヤ書全体の中心的テーマ、つまり全体としてのメッセージは「神の王的支配」であることを、本書は私たちにはつきりと示してくれます。イザヤの時代のユダ王国が、周囲の様々な国々との関係の中で翻弄され、右往左往していたのと同じように、現在の私たちも国際政治の複雑な絡みの中で「森の木々が風に揺れ動くように動揺」(七章二節)しています。その私たちに、イザヤの言葉は今も響い

ています。「気をつけて、静かにしていなさい。恐れてはならない」(七章四節)。イザヤがのように語ることができたのは、「神の王的支配」の実現を主なる神から示されていたからです。

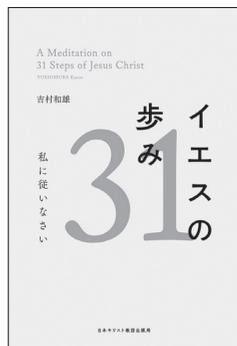
その王的支配は、死の力に対しても及ぶ、とイザヤは語っています。「主はこの山で……死を永遠に呑み込んでくださる」(二五章七〜八節)。パウロが「最後の敵として、死が無力にされます。……死は勝利に呑み込まれた。死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前の棘はどこにあるのか」(Iコリント一五章二六、五四〜五五節)と語る事ができたのも、このイザヤの預言のゆえです。本書は、イザヤ書に固有のメッセージを明らかにすると同時に、それが主イエス・キリストによる救いを指し示すものとなっていることを私たちに示してくれるのです。

〔著者大島力先生が十二月九日に逝去されたことを聞き、衝撃を受けました。ご遺族に主の慰めを祈ると共に、「死を永遠に呑み込んでくださる」(二五章八節)主のみ手に先生をお委ねしたいと思います。下巻の原稿はできています。先生の遺作の出版を待ち望みます。〕

(ふじかけ・じゅんいち) 日本基督教団横浜指路教会牧師  
(四六判・二〇八頁・定価二六四〇円・日本キリスト教団出版局)

## 日常生活の試練の只中で 御言葉を味わい祈り続けよう

〈評者〉井ノ川勝



イエスの歩み 31  
私に従いなさい  
吉村和雄著



昨年四月に逝去された加藤常昭先生が、遺言のように繰り返し語った言葉がある。植村正久の言葉である。説教は「基督自身を紹介し、其の恵を真正面より宣伝」することにある。「靈性の危機」（靈性の病）にあるひとりひとりの魂に、「慰安<sup>なぐさめ</sup>を与ふることである。主耶穌の齋す平安と休息とを之に分け与ふるが伝道者の任務である」（加藤常昭著『日本の説教者たち』五一〜五二頁、新教出版社、一九七二年）。説教は生けるキリストを真正面から紹介し、キリストの慰めに与らせることにある。

吉村和雄教師は加藤常昭主宰の「説教塾」の事務局長として、加藤先生の薫陶を受けたひとりである。本書の帯の言葉にこうある。「朝に夕に、食卓で、通勤中に、病床で。どこでも開けば、そこでイエスに会える」。本書の目的がここにある。本書は既刊の『聖書の祈り31』（大島力、川崎公平著）の姉妹本である。「聖書」「黙想」「祈り」が三一

日分として綴られている。その構成は、ルターが重んじた「祈り」「黙想」「試練」と対応している。信仰は日常生活の只中で、様々な試練に直面し、そこで聖書を通して主イエスの御声を聴き、御言葉を味わい、黙想し、祈ることにある。一日一章の新たな、しかし伝統的な手引きである。

本書は、福音書の主イエスの御生涯から、主イエスの言葉と出来事において、生ける主イエスとお会いし、生ける主イエスの御声を聴くことを願い、綴られたものである。

主イエスの御生涯を「ガラヤで」と「十字架と復活へ」に分け、その分水嶺に「ペトロの信仰告白」がある。福音書の主題が「主イエスはどなたなのか」から「メシア、生ける神の子は何をするのか」へ転換すると捉え、黙想する。

著者は「はじめに」で語る。「聖書の箇所と短いメッセージに続いて、祈りが載せられています。それは主イエ



**新刊**

**アッカド語文法**  
青島 忠一朗



LITHON

# アッカド語 文法

青島 忠一朗

- B5判並製 300頁
- 定価4,400円(税込)

古代メソポタミアで主要な言語であったアッカド語。本書はアッカド語の基礎文法を日本語で本格的に学べる初の文法書です。楔形文字の読み方やアッカド語の発音に始まり、各種の文法事項をわかりやすく解説。各課には練習問題と解答も掲載。また、講読テキストとして『ギルガメシュ叙事詩』や『ハンムラビ「法典」』の抜粋等も掲載。アッカド語を初めて学ぶ方が独習できる内容で、すでにアッカド語を学んだ方にも文法ハンドブックとして活用できる一冊です

---

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

スの言葉を聞き、出来事を見た人が、自分のすなおな思いを言葉にしたらこうなるだろうと考えて書いたものです。どうぞそれらを、ご自分の祈りとして祈ってみてください。それも、あなたが主イエスに出会う助けになると思いますが」。

私たちの信仰生活は、主イエスの御足の跡を踏み従うことにある（一ペトロ2・21）。それはペトロが語るこの言葉と響き合う。「あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています」（一ペトロ1・8）。甦られた主キリストとお会いし、「私に従いなさい」との生きた御声を日々新たに聴くことにある。

「主に従う力」と題された三〇日の黙想（ヨハネ二・一

七〜一九）を紹介する。「主はそのようなペトロに、『私を愛しているか』とお尋ねになりました。ペトロは、胸を張って『はい、愛しております』とは言えずに、ただ、あなたは知っていてくださる、としか言えませんでした。そのペトロに、主は三度、同じ問いをなさり、ペトロに三度、同じ答えを答えさせられました。……愛するとは、信じて希望を捨てないことです。ですからペトロは、主イエスを信じて、希望を捨てません、と答えたのです。でも、本当に愛したのは、本当に信じて、希望を捨てないでくださったのは、ペトロではなく、主イエスです。ペトロの愛は、この主イエスの愛に応えるものに過ぎません」。

（いのかわ・まさる 日本基督教団金沢教会牧師）  
（四六判・一四四頁・定価一七六〇円・日本キリスト教団出版局）

既刊案内 (2024年10月～2024年11月)

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
原 口 尚 彰	メタファーとしての譬え —福音書中の譬え・譬え話の 聖書学的考察	A5	191	2200	リ ト ン	10/1
大貫 隆、福嶋 揚、 遠藤勝信著 中川 仁編	宗 教 と 終 末 論	四六	215	2,200	リ ト ン	10/28
デービッド・ワトソン & ボール・ワトソン著 松 村 隆 訳 福 田 崇 監 修	全信徒祭司の教会を建てあげる —イエスの弟子へのひろがり を求めて	A5 変	304	1,980	ヨ ベ ル	10/8
ダイアン・ラングバーク著 前 島 常 郎 訳	パウハラ・セクハラとキリスト教会 —権威とその乱用	四六	288	1,980	ヨ ベ ル	10/21
大井 満 責任編集	ケズイック・コンベンション 説教集 2024	四六	144	1,650	ヨ ベ ル	10/29
マーク・ツヴィ・ブレッ トラー、ダニエル・J・ ハリントン S.J.、ビー ター・エンス 著 魯 恩 碩 訳	聖 書 学 と 信 仰 者 —信仰者は批判的聖書学とどう 向き合ふべきか	A5	219	2,970	新 教 出 版 社	10/11
川 崎 公 平	「読もう」シリーズ 使 徒 言 行 録 を 読 む	四六	224	2,750	日 本 キ リ ス ト 教 団 出 版 局	10/15
平 野 克 己 編	闇のなかには輝き —クリスマスの黙想 24	A5 変	54	1,430	日 本 キ リ ス ト 教 団 出 版 局	10/24
皆 川 達 夫 著 樋 口 隆 一 編	皆川達夫セレクション 音楽も人を救うことができる	A5	256	3,960	日 本 キ リ ス ト 教 団 出 版 局	10/25
山 我 哲 雄	VTJ旧約聖書注解 列 王 記 上 12 ～ 16 章	A5	314	5,280	日 本 キ リ ス ト 教 団 出 版 局	10/25
F. M. ヤング 著 関川泰寛、本城仰太訳	ギリシア教父の世界 —ニカイアからカルケドンまで	A5	722	8,470	教 文 館	10/23
ニーナ・スミット 著 日本聖書協会 訳	日 々 の 黙 想 366日 で 読 む 聖 書	A5 変	416	2,640	日 本 聖 書 協 会	10/31
A. E. マクグラス 著 田 中 従 子 訳	キリスト教の信じ方・伝え方 —弁証学入門	A5	272	3,300	教 文 館	11/6
片 柳 弘 史	悲 し みの 向 こ う —希望の扉を開く言葉 366	文庫	390	990	教 文 館	11/20
及 川 信	クリスマス小品集2 恋 人 た ち の 夜 明 け	四六	216	1,540	ヨ ベ ル	11/7
長 田 栄 一	聖 なる 民、宝 の 民 —出エジプト記～申命記講解	四六	288	1,980	ヨ ベ ル	11/11
鈴 木 道 也	違 い が あ り つ つ、 ひ と つ —試論「十全のイエス・キリス ト」へ	A5	456	3,080	ヨ ベ ル	11/15
イルゼ・テート 著 岡 野 彩 子 訳	善 き 力 —ボンヘッフアーを描き出す 12章	四六	326	3,960	新 教 出 版 社	11/8
吉 村 和 雄	イ エ ス の 歩 み 31 —私に従いなさい	四六	144	1,760	日 本 キ リ ス ト 教 団 出 版 局	11/8
金 斗 鉦 イラスト	聖書ぬりえ かみさまといつもいっしょ	B5	48	1,100	日 本 キ リ ス ト 教 団 出 版 局	11/11
大 澤 秀 夫	70 歳 からのキリスト教 —聖書でたどる人生の旅	四六	128	1,540	日 本 キ リ ス ト 教 団 出 版 局	11/22
小 井 沼 眞 樹 子	た だ そ こ に 居 な さ い! —小さな宣教師のブラジル通信	A5	286	1,980	キ リ ス ト 新 聞 社	11/15
ジョン＝リュック・ト ラクセル 著 福 岡 み ち る 訳	奇 跡 の 裏 側 —あるスイス人伝道者の人生	四六	260	1,650	キ リ ス ト 新 聞 社	11/21

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrikan_systen_0530@ghoo.co.jp	02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ1F	022-223-2736	022-302-6678	https://sendaicobs.uccj.jp/	info@sendaicobs.uccj.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館2-1 千葉カシヤセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待長堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimbo.com/	taishindo@sj.com.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	112-0014	文京区目黒1-44-4 塚廻ビル1F 日キ納(傍藤野門)	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkiban.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.brighter.jp/~yokohamads/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用		00560-8-51419	
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋市緑区建部16日本キリスト教団藤森納	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunsha.la.coccan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪府北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacobs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店(聖徳社)	591-8044	大阪府堺市北区中長尾町2F1-18	072-254-2233	共用		sakaix@outlook.jp	00970-0-172228
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkiban.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古大道/西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbt3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geoties.jp/matsuyama_1007/mbs.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacobs.net	info@okinawacobs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

# 福音と世界

2025年2月号

特集Ⅱボンヘツファー「倫理」の世界

寄稿者Ⅱ宮田光雄 星野 修、村松恵二

本田逸夫、小嶋大造、岡野彰子

追悼 佐竹明先生（廣石望、リレー連載「荊冠の神学」を読み直す4（佐々木結、好評インタビュー連載）女たちの闘い（上田律子さん）、証言としての旧約聖書（田島卓、「日本的キリスト教」を読む（山口陽一）、新約釈義 ルカ福音書（山崎ランサム和彦）他

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyu-pb.com

## 編集室から

布された「非常戒厳」がわずか6時間後に解除されるとい  
う異例の事態も起こり、その余波は今も続いている。

オールドメディアの影響力をSNSが凌駕したとする評  
論も散見された。共通して見えてきたのは、YouTubeを  
はじめとする動画投稿で大量に拡散される短い断定調の言  
葉の危うさ。尹大統領も極右の発信を熱心に視聴し、野党  
の抵抗は北朝鮮の謀略だとする荒唐無稽な主張を信じ込ん  
でいたとも報じられている。すでに2010年代後半から、

## 予告

本のひろば

2025年3月号

本・批評と紹介

この三冊！

（巻頭エッセイ）「挿絵の一つさえ見せなかつた先生  
の読み聞かせ」吉岡恵生

（特集）小林よう子

（書評）イルゼ・テート著「善き力」他

「ポスト真実」(Post-truth)への懸念は世界各地で示され  
てきたが、フェイクニュース、陰謀論の台頭、AI技術の  
進歩などと相まって、いよいよ末期的な様相を呈している。  
教会も他人事ではない。前回の大統領選でも熱烈にトラ  
ンプ氏を支持し、投票票に不正があったと吹聴するような  
牧師の動画が耳目を集め、真偽が定かではない反ワクチン  
言説にのめり込む信徒も少なくない。特定の個人を槍玉に  
挙げ、聞くに堪えない悪辣な中傷をまき散らすチャンネル  
が再生数を稼ぐ様は、世に言う「迷惑系YouTube」と見  
紛うばかり。

時流に乗って勢いを増すこれらの妄言に対し、客観的事  
実を重んじるまともな活字媒体の抵抗は、あまりに地味す  
ぎる。言葉の力と可能性を信じる出版界の良識ある底力が、  
今こそ問われている。

（松谷）

# 倫理

DBW版新訳

待望の完全訳!

1月24日

デイトリヒ・ボンヘッファー著

宮田光雄監訳、村松恵一、本田逸夫、小嶋大造、星野修訳

ボンヘッファーがライフワークとして取り組み、秘密警察による逮捕と刑死によってついに未完に終わった倫理学。長らく森野善右衛門訳『現代キリスト教倫理』として読み継がれてきたが、ここに新版ボンヘッファー全集第6巻(DBW6)に基づき全く新たな訳が完成。遺された草稿を徹底的な校訂によって成立年代順に再構成し、膨大な脚注を付したDBW版は、著者の構想を余すところなく明かにし、キリスト教倫理の可能性を鮮やかに指し示す。

◆四六判・定価6930円



# 善き力

ボンヘッファーを描き出す12章

イルゼ・テート著／岡野彩子訳

誰よりボンヘッファーのテキストに通暁する碩学が、12の視点から語った刺激的論考。彼の信仰と神学の世界がより近くなる。

◆四六判・定価3960円



# 聖書学と信仰者

信仰者は批判的聖書学とどう向き合うべきか

M・プレットラー、D・ハリントン、P・エンス著／魯恩碩訳

ユダヤ教、カトリック、プロテスタントの3人の著名な聖書学者が、相互の立場と方法を論じた白熱討論!

◆A5判・定価2970円



# ロゴセラピーと物語

大反響

勝田茅生著 フランクルが教える〈意味の人間学〉

【著者はNHK「こころの時代」講師】昔話や寓話を例にとり、ロゴセラピーの核心メッセージを平易に解説する。3刷

小B6判・定価1760円



# 平和の福音に生きる教会の宣言

1月24日

日本キリスト改革派教会「平和宣言」と解説

吉田隆、長谷部弘、弓矢健児、豊川慎【共著】

改革派教会は2023年の大会で「平和宣言」を採択した。この宣言は、教会がこの世に対して果たすべき責任を平和をつくる、という視点から積極的に展開する。教会における学びの素材とされることを願って、本文と共に懇切な解説を施した。

◆小B6判・定価990円

# ロゴセラピーのエッセンス

18の基本概念

◆B6変型判・定価2090円

フランクル著／赤坂桃子訳

『夜と霧』英語版に著者が付けた解説。18の基本概念を著者自身が解説した、ロゴセラピーへのまたとない入門書。



# 聖書の基礎知識 新約・旧約外典篇

2025年1月22日刊行予定

C.ヴェスターマン / F.アーヒウス  
J.ヴェーネルト 協力 吉田 忍 訳

新約聖書に収められた各文書はいつ、誰によって書かれ、どのような構造をもつのかなど、読む上で知っておきたい基本的な情報を凝縮。聖書をより深く理解するために必読の1冊。  
◆A5判 上製・224頁・定価4,400円

好評発売中

『改訂新版 聖書の基礎知識 旧約篇』

C. ヴェスターマン 左近 淑 / 大野惠正 = 訳 定価4,180円

# 聖書における 和解の思想

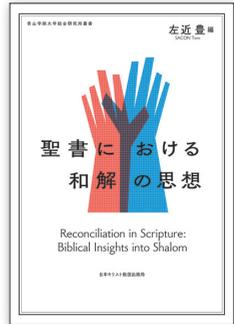
左近 豊 編

藤原淳賀 / 藤田潤一郎  
河野克也 / 浅野淳博  
辻 学 / 大宮 謙 執筆

2025年1月24日刊行予定

異なる価値観をもつ人々が、いかにして「和解」による対話と共存の可能性を探りうるのか。七人の気鋭の神学者・聖書学者が集い、聖書における「和解」の思想を論じ尽くす意欲作。

◆A5判 上製・352頁・定価4,400円



# 説教黙想アレテア叢書 創世記 1-28章

日本キリスト教団出版局 編

2025年1月23日刊行予定

『説教黙想 アレテア』誌に2017~18年連載された、創世記の重要単元の説教黙想を書籍化。上巻は全体の序論、天地創造からヤコブ物語の「ベテルの夢」までを収録。

◆A5判 並製・264頁・定価3,520円

本のひろば.com

